

# げんき

No.56

兵庫県立こども病院  
ニュースレター



# カエル



平成 29年(2017) 1月1日

## 新しいこども病院で新年を迎えるにあたって



病院長 長嶋 達也

新年あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって平和で実り多い年となることをお祈りいたします。また、こども病院に期待を寄せ、見守り応援して下さるすべての皆様に感謝申し上げます。そしてなによりも、こども病院で闘病中のこども達が一日も早く回復することを願っています。

新しい病院で迎える最初の年となりました。広くなった外来、手術室、病棟や強化された集中治療室、院内学級や在宅支援病棟、家族滞在のための دونالد・マクドナルド・ハウスなどすべての面で診療機能が向上したことを実感いたします。病棟は空・山・海のデザインコンセプトでまとめられた明るいブルー、グリーン、そしてやや濃いブルーに統一されて、すっきりとした空間を形成しています。新たな機能として集中治療科、リハビリテーション科、感染症科、臨床遺伝科の立ち上げも順調です。「断らない救急」を掲げる小児救急医療センターが、救急応答率98%以上の実績を残せたことは大きな前進です。また、屋上ヘリポートを利用して、重症患者をより広範な地域から受け入れることも進んでいます。こども病院における医療を必

要とする救急・重症患者を、必ず受け止めることのできる体制を確立してまいります。総合周産期母子医療センターは、NICUを21床に増床して受け入れ能力を強化いたしました。すでに満床の日が生じています。重症新生児の受け入れに、一層の努力をしてまいります。

「小児がん拠点病院」として重要な役割が期待される小児がん医療センターは、新しく整備された清潔度の高い小児がん病棟における高度な治療や緩和医療への取り組みを深化させています。こども病院南側に隣接して、2017年末に開設予定の新しい陽子線治療センターは、順調に建築が進み全容が明らかになってまいりました。

2016年4月には小児がんに対する陽子線治療が保険適用になったことから、治療開始への期待の高まりを感じます。開院から日を重ねるに従い、院内すべてに血が通い「新しい病院に誇りを入れる」という言葉が実現しつつあります。兵庫県における小児医療の「最後の砦」を守るという志を胸に、全職員の力をひとつにしてまいります。

私たちの第1の使命である「治す」ことに加え、「治らない」病気のこども達や重い障害を抱えたこども達を支えることをこども病院の両輪としています。こども病院は、多くの方々温かい支援を得ることにより初めてその力を発揮いたします。本年も引き続きご支援くださるようお願いいたします。「一花開天下春」、皆様のご健勝をお祈りいたします。



## 緩和ケア認定看護師について



緩和ケア認定看護師 塚田 友紀



緩和ケアは、病気に伴う体と心の痛みを和らげ、生活やその人らしさを大切に考える考え方のもと患者さんやご家族の療養生活をサポートする医療的ケアです。病気を持つ子どもやそのご家族は、診断を受けたときから様々な「つらい」「いたい」「かなしい」などの苦痛に遭遇します。そのような苦痛を和らげるために、いつでも、どこでも、だれでも受けることができます。

私は、平成27年度に緩和ケア認定看護師として認定を受けました。現在は病棟に所属し、医師や看護師、薬剤師や心理士とともに緩和ケアチームの一員としても活動しています。

子どもの持っている「力」を信じ、いつでもそのこどもらしく、そのご家族らしく過ごせるよう、体や心の辛さに寄り添い、思いを支えることを大切にしています。これからも、たくさんの医療者と力を合わせながら活動していきたいと思います。

## がん相談支援室の紹介



小児看護専門看護師 中谷 扶美

小児がんの年間新規患者数は2000から2500人と少なく、子どもたちが必ずしも適切な医療を受けられていない可能性があることへの懸念から、平成25年に当院を含む全国15施設が小児がん拠点病院に選定されました。小児がん医療の質の向上を目指し、拠点病院には、院内外の小児がん患者、家族、医療従事者に対する相談支援体制を整えることが求められています。

当院は、新病院への移転後、更なる相談支援体制の充実を図るため、個室の相談室だけでなく図書閲覧や交流ができるフリースペースを有する「看護相談室・がん相談支援室」を1階の外来エリアに開設しました。また、患者・家族の情報収集の場、語り合う場の提供

としてサロンの開催もしています。がん相談支援室では、小児看護専門看護師、医療福祉相談員、必要時には血液腫瘍内科の医師等が平日9時から17時まで、電話相談、対面相談に応じておりますので、是非お気軽にご利用ください。



臨床遺伝科は新病院移転にあわせて開設された新しい診療科です。「染色体や遺伝子」に原因がある(と考えられる)さまざまな病気(以下、遺伝性疾患といいます)のお子さまの遺伝学的診断や遺伝相談、治療を行っています。

遺伝性疾患は近年研究が大きく進んでいる分野で、今まで原因がわからなかった患者様でも原因遺伝子が判明する例が増えています。また判明した原因遺伝子を元にした、病態解明や治療法開発に関する研究も世界中で行われています。臨床遺伝科では神戸大学小児科と連携し、次世代シーケンサーやアレイCGHといった最新の遺伝子解析システムを使った、正確な遺伝学的診断を行います。また、全国規模の研究プロジェクトである「IRUD-P(小児希少・未診断疾患イニシア

ティブ)」を利用した網羅的な遺伝子解析研究への機運しも行っています。

また診断だけではなく、それぞれの遺伝性疾患にあわせた必要な治療や、病気の詳しい説明、次のお子さんのことなどの情報提供を行っています。遺伝性疾患には非常にまれな病気も多く、同じ病気を持つ患者様のご家族どうして支えあうこと(ピアサポートといいます)で、お子さまやご家族の悩みや不安が解消される場合があります。臨床遺伝科ではこのようなピアサポートへの機運しも行います。

一方で、遺伝子解析にはメリットもデメリットもあります。解析を行う前にはそのような点も十分に説明いたします。「とりあえず話を聞きたい」というだけでもけっこうです。興味のある方はお気軽にご相談ください。

### 【こんな方を対象にしています】

- 「遺伝子の病気と考えられるが診断がわからない」といわれた。ぜひ原因を調べてほしい
- ○○症候群と言われたが……
  - ⇒遺伝子解析で確認してほしい
  - ⇒遺伝子解析をした方がいいのか、とりあえず話を聞いてみたい
  - ⇒どんな病気が説明が聞きたい
  - ⇒次の子どもの相談がしたい
  - ⇒同じ病気の方と話がしてみたい





## 一般撮影部門のトピックス

放射線部 沼田 憲作

放射線部では新病院移転に併せて放射線システムの再構築を行い、X線撮影装置も更新・増設されました。これにより、検査内容によって撮影室を使い分ける制限がなくなり、患者様の待ち時間短縮が実現しました。さらに、X線造影画像の記録媒体（いわゆるフィルム）にフラットパネルディテクタという半導体のシステムを導入したことで、撮影後は瞬時に画像を表示・送信することができるようになりました。特に病棟のポータブル撮影では、撮影直後にその場で画像の確認ができ、医師から好評を得ています。なお、病棟ポータブル撮影は、病気の診断・経過観察だけでなく、気管内チューブや静脈カテーテルの留置確認など、X線撮影室への入室が困難な患者様を対象に行っています。

放射線部では、これからもより一層、安心

安全かつスピーディーな対応で医療サービスが提供できるよう努めてまいります。



写真 ポータブル撮影シュミレーション

### Concept コンセプト

● **基本理念** 地域病・小児医療の総合施設として、他と子どもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

### ● 基本方針

- |                         |                             |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1. 患者の権利を尊重した医療の実現      | 5. 親と子どもが一体となった治療の推進        |
| 2. 安全・安心と信頼の医療の提供       | 6. 子どもへの愛とまことにより導かれた医療人の育成  |
| 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進    | 7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上 |
| 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携 | 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化   |



### 編集後記

今年の干支は十干（じっかん）と十二支を合わせて「丁酉（ひのととり）」とのこと。商売などで縁起の良い干支といわれ、「親切で世話好き」な人が多い？だとか。身近に酉年の人はおられますか？

発行14年目を迎える「けんきカエル」は、今年も情報を発信致します。

編集委員長：橋本ひとみ  
編集委員：大津徳秀 大西美穂  
井口秀子 山本正子  
沼田憲作 森田沙央理  
石田佳人 橋本智文  
中村真子

本誌に関するご感想・ご要望・ご質問はこちらまで



兵庫県立子ども病院  
HYOGO PREFECTURAL  
KOBÉ  
CHILDREN'S  
HOSPITAL

〒650-0047  
神戸市中央区港崎南町1丁目6-7  
TEL. 078-945-7300  
FAX. 078-302-1023  
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>